都市計画道路の変更 住民に十分な説明を

計画から40年以上たって 住民には突然の計画変更

7月23日に都市計画道路の見直し説明会が行われました。

大阪府と寝屋川市では、社会情勢の変化等に伴い、都市計画道路の必要性などが変化していることから、都市計画道路の見直し作業を進めていること。

都市計画決定後、長期にわたり事業に着手できていない都市計画道路について、その必要性および実現性を検証し、必要性、実現性の低い都市計画道路の廃止及び幅員等の変更案を取りまとめたことが明らかにされ、各路線について内容が説明されました。

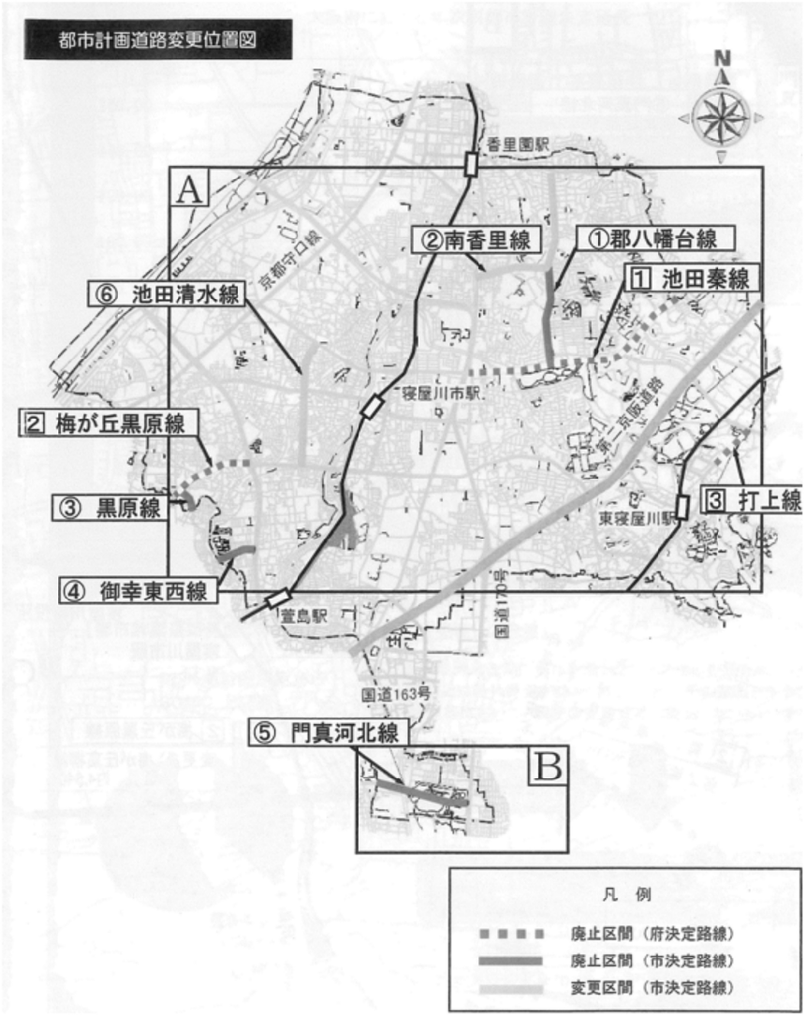
説明会の参加者からは「計画ができてから40年以上たっている、いつできるのか明らかにしてほしい」市からは「努力をするとしか言えないです」と回答。質問「説明とあるが決定されたと考えてよいのか」、回答「計画通りに進めていきたい」質問「具体的に何が変わるのか」、回答「廃止されれば制約がなくなる」などと様々な質疑応答がありました。

計画は今後、大阪府、寝屋川市と若干のずれはありますが、概ね、公聴会、都市計画案の縦覧、都市計画審議会を経て2014年1・2月頃に変更（廃止）の都市計画決定と予定されていると説明されました。

対象地域の住民の皆さんの意見が反映される都市計画となるように意見を府・市へお寄せ下さい。

今回の都市計画道路に直接かかわる対象者は約420件、当日の参加者は75名でした。

説明は一回で終わらず、関係者全員に十分な説明が必要です。



東部大阪都市計画道路の変更について（寝屋川市域）

変更概要

路線一覧表（府決定路線）

現路線名	変更内容
池田秦線	一部区間の廃止（約2260m） （延長）約4380m⇒約2120m
梅ヶ丘黒原線	一部区間の廃止（約860m）名称変更 【変更前】梅ヶ丘黒原線（延長約5500m） 【変更後】梅ヶ丘高柳線（延長約4640m）
打上線	一部区間の廃止（約690m） （延長）約2010m⇒約1320m

路線一覧表（市決定路線）

現路線名	変更内容
群八幡台線	全線廃止（約1860m）
南香里線	群八幡台線の一部区間の追加（約920m）、名称変更 【変更前】南香里線（延長約700m） 【変更後】成田境橋線（延長約1620m）
黒原線	全線廃止（約200m）
御幸東西線	全線廃止（約390m）
門真河北線	全線廃止（約880m）
池田清水線	幅員変更 25m⇒18m、車線数 4⇒2

寝屋川民報 議会版

発行
日本共産党
寝屋川市会議員団
824-1181（内線2399）
FAX 824-7760
Email:jcpncc@cc-net.or.jp
No. 2480

太田 とおる
高柳2-49-2
〒826－1664

田中 ひさ子
国松町10-36
〒823－1714

中林 かずえ
宝町4-33
〒839－2289

中谷 光夫
高宮2-19-5
〒823－5947

松尾 信次
下木田町12-6
〒821－7427

ふるさとリーサム・東寝屋川駅前線沿道地区

一部地域優先のまちづくりでいいのか

まちづくりは住民参加で時間をかけて合意形成を

ふるさとリーサム地区まちづくりについての懇談会に参加しました。今回の学習会は寝屋川市東部まちづくりの会（会長谷口正暁氏）が担当課に申し入れ実現しました。

まず最初に、寝屋川市の担当課より、ふるさとリーサム地区まちづくり整備計画（案）と東寝屋川駅前線沿道地区まちづくり整備計画（案）の説明が行われた後、質疑が行われました。

参加者からは、「寝屋川市内の密集住宅地域の道路整備がまだまだ十分に進捗していない中で、なぜこの地域が優先的に開発される地域となっているのか。」と質問がありました。

寝屋川市は、「密集地域は引き続き整備を行っていくが、今回のリーサム地区については地元の要望があり計画されている。」と答えました。

また、参加者からは「地元というが、地元に住んでいる人は回覧板で計画が回されて初めて知った人が多く、地元に住んでいる人が要望をしたものでもなければ、地元全体の考えでもない。計画は白紙に戻してほしい。」と訴えがありました。

これに対して、市は地権者を中心に東部のまちづくりを考える会がつくられ、何度も会合をもち検討をするなかでつくられたもので、地元の意向である。」と強調しました。

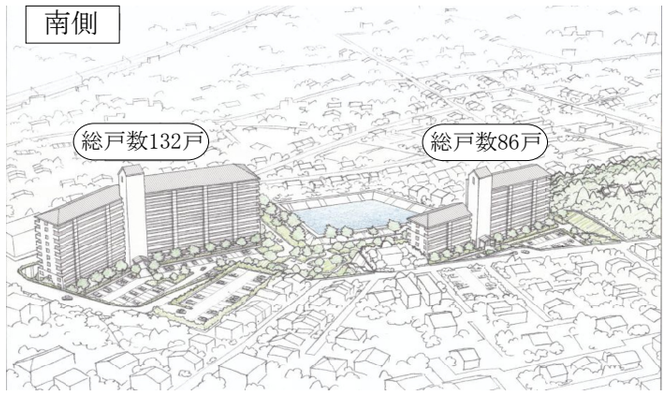
全員が住み続けられない市営住宅の建て替え計画

市営住宅の建て替え移転については、現在の建て替え予定は２００戸の計画であり、不足分は借り上げ住宅を検討しているとの説明を受けて、参加者からは「ふるさとリーサム地区はふるさとに帰って来たくなるまちづくりと言いながら、当初の計画から市営住宅に住んでいる人が住み続けるだけの戸数の市営住宅が考えられていないのは矛盾するのではないか」と指摘されると、「あくまで計画です」と市は答えました。

市の説明と参加者とのやり取りを聞いて、一部の権利者のための道路事業ではないのか、との疑問がさらに強くなりました。

■団地再生 ボリューム検討（案）

・建替敷地は南側とし、敷地面積は約13,000 ㎡（図上計測）。
・明和住宅の建替予定住戸数は計 200戸とします。（北・南側の市営住宅には、現状 405世帯が入居していますが、不足分は借上住宅等による対応を想定しています。）
・敷地内の高低差や周辺環境に配慮した住棟配置とします。



議員日誌

太田とおる

いつものように橋の上で宣伝をしていますと、夏休みに入ったからか、小中学生の姿を多く見かけます。

そして小学生が市駅前の親水公園で川に入って遊ぶ姿を見かける回数が増えています。

「流れも速く、危ないよ」と声をかけると多くの小学生は素直に上がってくれています。たまに声をかけても上がってくれない子どもいて、教育委員会に連絡を取って注意に来てもらっています。

寝屋川駅前の親水公園は川に降りる階段（船着き場）がついているのに川で遊ぶことは禁止されています。また、近隣の小学校では子ども同士で遊びに来ることも禁止されています。遊び場があって遊んではいけないというのは申し訳なく思いますが、まだまだ寝屋川は泳げるほどきれいではなく、流れも速いので心を鬼にして「川から上がり」と声をかける日々が続きます。